

平成25年度第3回千葉競輪場開催業務等包括委託審査委員会議事録要旨

- 1 日 時： 平成26年1月9日（木）午前11時～午後1時
- 2 場 所： 千葉競輪場4階多目的室
- 3 出席者： （委員）
森委員長、白土委員、市原委員、山本委員、藤本委員
（事務局）
神谷経済部長、鐺木所長、時田所長補佐、齋藤主査、葛巻主任主事
（日本写真判定株式会社 以下JPF）
渡辺代表取締役社長、吉井本社包括担当部長、小宮事業長、
荻原事業長代理、下村事業長代理、鈴木主任

4 議 題

- （1）包括業務委託の進捗状況モニタリングについて（10月～12月）
- （2）第2回委員会提案事項の報告

5 会議経過

（森委員長）

議題1の包括業務委託の進捗状況モニタリングについて及び議題2の第2回委員会提案事項の報告について、JPFに説明を求める。

（包括業務委託の進捗状況モニタリングについて）

（JPFが配布資料に沿って説明）

（各業務について）

- ・従事員の業務拡大について、上期から花いっぱい活動として、場内の美化、植栽の管理、バンク内芝刈り等を月1回程度継続している。
- ・イベント等の企画について、事前に従事員を募集して、イベントサービススタッフとして業務を行っている。
- ・スタッフ研修として、富山競輪場のスタッフと相互交流、実務研修を実施している。両スタッフが意見交換を行い、自場の業務に活かすよう進めている。
- ・簡易的なイベントは、従事員のみで実施できるよう、スキルアップを図っている。

（集客向上策について）

- ・既存のお客様向けに、メインスタンドの利用促進を実施している。
- ・年末のビッグレース「KEIRINGランプリ」（GP）の場外発売時に、1階ロビ

- ーステージで、選手のトークショーと予想会を実施した。また、クリスマス開催時には、地元福祉施設の「でい・さくさべ」と共同で、パンケーキ等の粗品を配布した。
- ・メインスタンド2階・3階に、モニターの大型化及び増設による観戦環境の改善を図った。
 - ・ナイターの場合売上向上策として、12月のいわき平ナイターから寒冷対策として、メインスタンド2階特観席を無料開放して、暖かい環境で車券購入できるようにした。
 - ・新規のお客様向けに、千葉競輪開設記念の3日目と最終日の2日間の招待券を、地域住民、プレイベント参加者、ポスター掲示協力業者、自転車ショップ等、広く配布した。
 - ・情報誌、HPによる招待者を対象とした企画で、「i k o i フェスティバル」を開催した。多くのイベント等を実施し、多数の家族連れ、若い年齢層のお客様の来場があった。「i k o i フェスティバル」来場者数は397名。
 - ・20日は天候に恵まれなかった。今後は、天候に左右されないようなイベントを準備し、競輪初心者が購入しやすいよう初心者ガイダンス、コンシェルジュなどの設置を検討し、サービスの強化を図る。
 - ・今回の「i k o i」は、記念競輪特集号として千葉市内に8万5,000部のポスティングを実施した。
 - ・WEBの告知は、通常の千葉競輪HPの他に、千葉競輪特設ページを設けて、より多くの情報を提供した。
 - ・ニッカンスポーツHPでは、WEB広告バナーを掲載して開催告知の周知拡大を図った。
 - ・自転車好きの方が視聴するBAYFMの番組「CYCLE STAR」内で、千葉競輪開設記念のイベント案内、来場者サービスの内容告知を実施した。

(千葉サイクルクラブについて)

- ・千葉サイクルクラブは、月に2回から3回程度、日曜日を中心に練習を実施しており、会員数は15名となった。
- ・千葉競輪HP、i k o i WEBでの告知を中心に自転車愛好家や地元自転車ショップの顧客を誘引して会員拡大を図っていく。
- ・スポーツの場として千葉競輪場を利用していただくことで、競輪に興味を持ってもらい、さらには、車券購入機会の場を創出したい。

(東京六大学自転車競技大会について)

- ・11月9日に第27回東京六大学自転車競技大会を実施した。
- ・六大学戦では、各大学応援団に3・4コーナー側スタンドを開放し、応援合戦を許可した。また、学生たちが楽しめるよう、ケータリングカーを用意した。

(第1回自転車レース大会について)

- ・12月15日に第1回自転車レース大会を実施した。ロードバイク・ピストバイクの2部門。250メートルと1,000メートルのタイムトライアル方式で競った。千葉サイクルクラブの会員や、地元自転車ショップの顧客が60名以上参加して、115レース以上実施して、全員に判定写真をプレゼントした。自転車レース大会での落車、けがはなかった。
- ・表彰式はメインスタンド3階の特観席で実施した。待機場所としても家族と参加者に開放した。
- ・選手会の協力で、競輪模擬レースも実施した。競輪競技に興味喚起を図った。
- ・告知については、通常通りのスポーツ新聞等の広告、記事拡充の他に、自転車情報誌「i k o i」を発行した。第2回自転車レースを3月下旬に実施したい。

(施設について)

- ・10月1日から場内完全分煙化を実施した。J T日本たばこから、灰皿の提供や分煙の指導があった。スタッフと場内警備員で巡回し、分煙のご理解と、施策を実施中。
- ・喫煙場所は、第7投票所情報コーナーを中心に6か所設置した。
- ・情報掲示板を設置して、ファンサービスのイベント案内告知などに利用する。
- ・千葉競輪開設記念に間に合わせて、壁面アートを千葉大学の学生と地元福祉団体・施設団体の方々の協力で、10月15日に完成した。地元のチバテレビで、大学生と福祉施設障害者とのコラボアートとして取り上げられた。
- ・10月1日QVCマリンフィールドイベントでの千葉ロッテマリーンズとのコラボイベントを開催。
- ・10月13日に千葉市民産業まつりにおけるブースを出展し、サイクリングゲームによるイベントを実施。
- ・11月2日、3日にサイクルモード関連の駅前広場におけるイベントを実施。リーフレットの配布、スピードチャレンジ、サイクルストリートなどの自転車競技模擬体験、千葉競輪場のイメージキャラクター「ライモン」のPRなどを、選手会と協力して実施した。

(ネクストステップ)

- ・VIP集客施策、売上向上策として、高額購入者を対象とした専用の部屋を設置、準備を進めている。
- ・1月の情報共有会議で、設置場所について協議する予定。

(売上報告・事業計画進捗状況について)

- ・10月の本場開催の売上について、記念開催のためと千葉市の目標は65億円の設定になっていたが、弊社(JPF)は67億円に設定した。
- ・その結果、車券売上額は、61億3,911万3,000円。65億円に約3億6,000万円届かなかった。来場者は9,736名。前年度と比較して、1,238名の減少。
- ・本場開催の車券売上額は、11月は千葉市の計画1億円に対して9,160万1,000円、目標に839万9,000円届かなかった。また、12月の千葉市の計画7億円に対して8億489万9,000円と1億489万9,000円超えた。
- ・場外開催の収入については、10月は千葉市の計画2,500万円に対して1,773万3,000円で726万7,000円届かなかった。また、11月は千葉市の計画2,800万円に対して2,931万5,000円で131万5,000円超えた。さらに、12月は千葉市の計画4,500万に対して2,705万8,000円で1,794万2,000円届かなかった。
- ・千葉競輪開設記念の分析については、前年比初日は92.6%、2日目は97.7%、3日目は98.2%、4日目最終日は94.9%で、全体では、61億3,839万9,900円、前年比95.82%であった。
- ・入場者数については、全体の来場者は9,736名、前年比は88.72%で、前年度と比較して、1,238名の減少であった。
- ・選手の幹旋状況、レースの番組構成からも売上が期待できたが、開催前日に台風26号の接近と悪天候の影響があり、10月中旬までの開設記念集計の全国特別競輪売上前年比99.3%と比較しても、平均下げ幅水準より下がった。なお、3日目は、天候に恵まれ、イベント企画もあり入場者は増加した。
- ・売上分析は、前橋競輪場などの場外発売がなかったこと、一人あたりの購買単価が下落していること、入場者数が下落していることが大きく影響を与えたと考えている。

(議題2 第2回委員会提案事項の報告について)

- ・競輪場の雰囲気改善について、バンク内の花壇やバンク内・場内における分電盤の色の塗り直し、選手通路雨漏りのコーティングなどを施設担当スタッフが改善した。
- ・突発的なトラブルに対応するため、施行者との共有会議で細かい打ち合わせを実施している。トラブルについては、報告書をJPF社内で作成し、毎日、業務日報を施行者に提出している。
- ・選手、アマチュア間での走路使用の調整について、施行者、選手会と調整している。
- ・ファンサービスについて、サイクルフェスティバル等、近隣住民向けのイベントを強化している。千葉競輪開設記念時に「i k o i フェスティバル」を開催した。
- ・12月に第1回自転車レースを開催。各イベント開催でケータリング業者の導入、飲

食の充実を図った。

- ・千葉サイクルクラブの活動を継続しつつ、千葉を拠点とするアスリートやオリンピック・パラリンピックを目指すアスリートに対して練習場所を提供して、アマチュア競技、自転車競技の活動拠点としてアスリート育成につなげたい。
- ・ライモンが千葉競輪場のイメージキャラクターだと一目で分かるように、タスキをかけた。
- ・ナイター競輪における新規顧客の開拓のための施策として、新聞広告等を実施した。正門のモニターでナイターを告知した。

(森委員長)

事務局にモニタリング結果について説明を求める。

(事務局 時田所長補佐)

- ・受託者から提出のあった平成25年度開催事業実施計画にもとづき計画通り事業を実施していることを確認した。
- ・開催ごとに、10月～12月の開催業務実施計画書及び開催業務実施報告書の提出を受けて、市営競輪の開催業務について検査を行い、実施計画通り開催業務を良好に遂行していることを評価した。

(市原委員)

今年度の車券売上額の見通しと収益の見通しは。

(事務局 鎗木所長)

- ・車券売上額と収益は別物。6月にジャパンカップという全国12の競輪場が交代で開催するF Iを開催した。16億円近い売上があった。
- ・車券売上金は、売上の75%をお客様に払い戻し、残りの25%の中から色々な選手賞金などの経費を支払う。

最終的には、単年度黒字分から一般会計に1,400万円繰り出して、残った額が翌年度への繰越金になる。

場外開催については、10月の開催日数が少ないこと、12月のナイター競輪で車券売上額が低かったため、1月から3月にかけて、売上が増えていく傾向があるので何とか予定していた売上を確保したい。

(市原委員)

開設記念の本場のみの車券売上額と1人当たりの購入単価はいくらか。

(J P F)

- ・本場における開設記念の4日間の車券売上額は約1億2,600万円。1人当たりの

1日の平均購入額は約1万3,000円。

(山本委員)

場外収入は収益への貢献になる。施行者とJPFの業務の分担は。

(事務局 鎗木所長)

- ・市は、場外発売の日程の調整、他の競輪場との協定などの事務を行い、実際に車券を発売する業務や投票券の払戻し業務などの一部の業務をJPFに委託している。

(山本委員)

VIPルームをJPF負担で設置するのはなぜか。

(事務局 鎗木所長)

- ・JPFが車券売上向上のために提案しているため。

(藤本委員)

インターネットの売り上げ向上対策は。

(JPF)

- ・記念については、キャッシュバックキャンペーンをやって、自場の開設記念前に当選者に戻して、車券を千葉で購入してもらう施策を実施した。

(藤本委員)

競輪場でもインターネットで車券が購入できるのか。キャッシュバックとは何か

(JPF)

- ・お客様個人のスマートフォンなどでkeirin.jpという投票サイトを通じて車券を購入することもできる。

キャッシュバックは、keirin.jpという投票サイトの会員になる際に、口座の指定が必要であり、その口座にキャッシュバックする仕組みとなっている。

(藤本委員)

千葉競輪開設記念のインターネットによる売上げはいくらか。

(JPF)

- ・総額で8億9495万円。この中には、電話投票の売り上げも含む。車券売上額の総額61億のうちの約9億円がインターネットと電話での購入金額。

(白土委員)

ナイター場外売上向上施策として、メインスタンド2階を開放しているという告知をどのようにしているのか。

(J P F)

- ・競輪場内での告知の他、本場開催の新聞広告に記載している。B A Y F Mの放送で日程を告知している。

(白土委員)

競輪場の収益にどう繋げていくか、例えば、第1回自転車レースのお客様に、ネットの会員になってもらい、無料入場券を配って、ナイターに来てもらうなどのアプローチを考えてもらいたい。

(J P F)

- ・自転車レース参加者を初心者体験ツアーに招待した。参加者60名のうち、今回の参加者は4名。競輪の車券購入券のプレゼントなどを実施し。コンシェルジュをつけて、競輪開催の案内やガイドをおこなった。

(白土委員)

60名中4名は少ない。商売につなげていくために、車券を買ってもらうか、自転車イベントにエントリー料を取るなどのアプローチを考えていただきたい。

また、千葉競輪開設記念を「i k o i」を8万5,000部のポスティングをしたが、効果測定はどうだったのか。

(J P F)

- ・19日に「i k o i フェスティバル」の冊子を持って来て入場した方は39名。
「i k o i」のチケット持参の方はS席の方が90名、一般席の方が159名。20日は冊子からのご来場が18名、チケット持参は、S席の方が106名、一般席の方が152名。

(白土委員)

J P Fとしては、このP Rについては成功だったという評価か。

(J P F)

- ・そのとおり。

(山本委員)

イベントをした時の収益はどのような配分か。

(事務局 鎗木所長)

- ・イベントに対する収益は全部受託者だが、費用の方が多くかかっている。

(山本委員)

- ・千葉市として確保したい収益はいくらか。

(事務局 鎗木所長)

・ 3億4,500万円で、そのうちの1億3,000万円が収益保証金。国有地借地料1億1,600万円と繰出金1,400万円を合わせて1億3,000万。残りの2億1,500万円が、昨年までは、年間約240～250日位の場外開催による収益。昨年度は約1億8,500万円だったが、今年度から場外開催日数を300日にすることにより、2億1,500万の収入を見込んでいる。実際には、本場開催だけでの収益は、千葉市を含めて30場近くが厳しい状況で運営している。

(山本委員)

J P Fに委託している金額は固定か。

(事務局 鎗木所長)

・ そのとおり。

(山本委員)

V I Pブースを作るのは、委託料の中からJ P Fが出しているのか。

(事務局 鎗木所長)

・ そのとおり。

(藤本委員)

V I Pルームの対象者に対する広告はどのように考えているのか。

(J P F)

・ 関係者、高額所得者のご招待、インターネット投票のデータを管理しているところから、車券を一定金額以上購入している方を抽出して招待することを考えている。

(藤本委員)

「i k o i フェスティバル」で、既存客と新規の来場者を分けた理由は。

(J P F)

・ J K Aのアンケートに、初めての来場者は、既存のお客様への恐怖心、場内の設備に対する負の先入観がある。既存のお客様から分離して、慣れてもらいたいと考えたため。

(藤本委員)

キャラクターのライモン君の名前の由来は何か。

(事務局 鎗木所長)

・ 架空の動物で、ライオンと猿が合体したスーパーモンキー。平成7年度に特別競輪である日本選手権を千葉競輪場で開催した時に、7社からのキャラクター提案を市民

による投票でライモン君に決定した。千葉競輪場のキャラクターであることがわかるように、ライモン君と書かれたタスキをつけるようにしている。

(山本委員)

ライモン君のグッズからの物販収益はいくらあるのか。

(事務局 鎗木所長)

・グッズを販売していない。

(藤本委員)

競輪カラー（1番車：白、2番車：黒、3番車：赤、4番車：青、5番車：黄、6番車：緑、7番車：オレンジ、8番車：ピンク、9番車：紫）を活かして、場内のイベントや広告に活用したら良いと思いますので、要望させていただきます。

(森委員長)

平成26年度に向けて、J P F から千葉市に新しい提案はあるか。

(J P F)

・高額購入者向けのブース設置を計画している。

(森委員長)

委員から売上向上のための情報提供はないか。こんな商品をお客様に提供するとお客様が車券を多く購入をする、開催の日程の確保だとか、場外展開など。今までと違った視点からの提案も一つの参考になる。

また、どういった番組を作ったらいいのか、色々な意見があると思うが、良いものがあれば、全輪協を通じて全国の競輪場に反映したい。

現在、1日11レースを行っているが、平成26年度から12レース制の提案があり、検討中。12レース制になれば、1日当たりの売上が4,000万円増を見込める。3日間だと1億2,000万円の増加。選手の数が多くなるため、賞金、交付金、競技会への委託料などの経費が増える。

また、1月から3月までの本場の売上計画、場外の売上計画がJ P F の計画では少ない。何か理由があるのか。

(J P F)

・開催日程が少ないことからの積算だと思う。

(山本委員)

例えばネーミングライツはどうか。

(神谷経済部長)

- ・千葉市役所のエレベーターには、マンションのチラシが貼ってある。段階を踏めばできると思う。

(森委員長)

前橋競輪場がネーミングライツを募集していた。

(森委員長)

競輪場では、看板等を設置して少しでも収益を上げるように努力している。参考になるご意見だと思う。

議題について了承。